

No.104 2016. 4. 15 <sup>あおじゅかい</sup> 会報「青樹会」 会報事務局 〒331 - 0825

中国内蒙古沙丘・草原緑化研究会 さいたま市北区櫛引町 2-574-2 GA 大宮 111 号

代表 押田 敏 雄

押田 敏 雄 方(青樹会事務局長代行)

(Tel & Fax 048 - 664 - 5884)

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~aojukai/>

e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

## 1. 「映画鑑賞会」+ 「意見交換会」+ 「新年会」が開催される



去る1月16日(土)の14時から、東京駅八重洲俱樂部において、恒例の映画鑑賞会が開催されました。

今回の映画は中国映画ですが、主演はあの健さんこと高倉健の『単騎、千里を走る』を上映致しました。

中国の巨匠・張芸謀(チャン・イーモウ)監督と、監督が尊敬して止まない高倉健との夢のコラボレーションが実現した感動のヒューマンドラマ。1人の日本人が異国の地で体験する心の触れ合いを通して、人と人とのきずなの大切さを再認識していく物語。単身で中国の撮影隊に加わったという高倉健の現地の人々と素晴らしい交流が作品全体ににじみ出ている。中国の人と言葉が通じないことで生じるやりとりがなんともコミカルで笑いを誘う点にも注目です。

なお、DVDを押田が所有していますので、ご覧になりたい方は、ご一報下さい。

映画鑑賞会と意見交換会には窪田(定)、金井、神尾、中村(民)、石川、西、樋川、鈴木、磯田、立野、押田(照)、押田(明)および押田(敏)の13名が参加されました。映画が終わってからの意見交換会は各自の近況報告、沙漠緑化に注いだ感想などが披露されました。



次いで、場所を「庄や八重洲口店」に移動した新年会には窪田(定)、中村(千)、神尾、中村(民)、立野、石川、西、樋川、磯田、押田(照)、押田(明)および押田(敏)の12名が参加されました。



石川さん

樋川さん 鈴木さん

西さん

中村(民)さん



磯田さん 窪田さん 金井さん 立野さん 押田(照)さん 神尾さん 押田(敏)さん



押田(明)さん



中村(千)さん

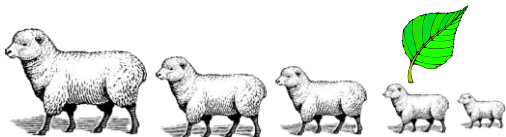


## 2. 「総会」+ 「歓迎会」を開催致します

来る5月21日、「青樹会」の総会が下記のように開催されます。5月17日(火)~26日(木)に中国科学院瀋陽応用生態研究所の蔣徳明教授の訪日が予定されていますので、それに対応して、歓迎会も兼ねる会にしたいと思います。総会への参加予定者は5月14日(土)までに下記の押田宛に連絡をお願い致します。

押田 : Tel/Fax:048-664-5884、e-mail:oshida@azabu-u.ac.jp

**5月21日(土)午後3時~  
八重洲倶楽部第7会議室**

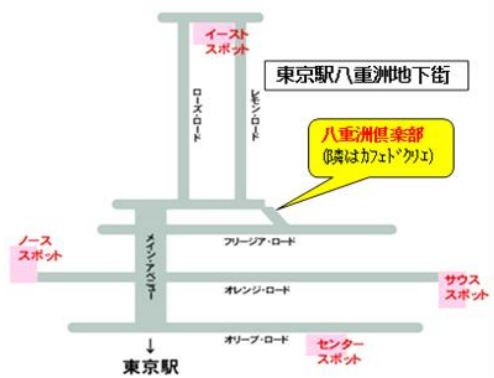


### 八重洲倶楽部

住所: 東京都中央区八重洲 2-1 八重洲地下街中 1号  
Tel 03(3275)0801 Tel 03(3275)11061

#### <交通の便>

- JR各線 東京駅 八重洲地下中央口 徒歩 3分
- 東京メトロ丸の内線 東京駅 八重洲北口 徒歩 4分
- 東京メトロ銀座線 京橋駅 6.7 出口 徒歩 4分
- 東京メトロ東西線 日本橋駅 A3/B1/B3 出口 徒歩 3分
- 東京メトロ東西線 大手町駅 B7・B10 出口 徒歩約 4分



### 3. 西さんの作品が展示されます



西敬史・青樹会代表の油絵 3 点が下記の作品展で展示されます。今年  
は我が家の犬が題材の作品のようです。ゴールデンウィークの期間です  
が、よろしかったらお出かけ下さい。



西さん

**第 8 回「稲の会」作品展**  
会期:4 月 29 日(金)~5 月 4 日(水)10:00~18:00  
(ただし初日は 13 時から、最終日は 15 時まで)  
会場:センオン杉並 1F 展示室  
東京都杉並区梅里 1-22-32 ☎03(3317)6611  
東京メトロ丸の内線・東高円寺駅・徒歩 5 分



### 4. 「大中国は日本の助けなど必要としない」



日中友好の緑化基金への出資を拒否？



中国甘肅省蘭州市の日中緑化事業

中国の植林支援のため日本政府が創設した「日中緑化交流基金」に対し、支援先の中国が“恩知らず”な態度をとっている。基金目減りに伴い日本政府が事業継続のため中国政府にも資金拠出を求めたが、色よい返事はなし。日中関係改善が進まないため中国政府が拒否したとの情報もあり、中国では「日本の助けはいらぬ」との声まで上がる。日本は過去に 3 兆円超もの円借款を拠出したが、反日宣伝の影響で中国ではあまり知られていないという苦い記憶がある。度重なる恩知らずな対応に、日本でも対中支援への異論が噴出し、基金の存在意義も宙に浮きつつある。

#### ■故小淵氏、日中友好願い基金を創設

この基金は平成 11 年に故小淵恵三元首相が提案し、政府が約 100 億円を拠出して創設したもので、「小淵基金」とも呼ばれる。

中国では当時、長江(揚子江)を中心に多数の死傷者を出した大洪水に見舞われ、治山治水が内政の最重要課題のひとつとなっていた。小淵氏は中国での緑化推進を日中環境協力の柱として重視し、基金の設置が「21 世紀へ向けた日中友好の礎」(当時の外務省筋)となることを期待していたという。事業は日本が主だって実施。民間団体などによる植林緑化運動に資金を提供し続け、26 年度までの植林面積は累計で約 6 万 5000ha に上った。

中国側も成果は認めているようで、昨年 8 月に中国政府が日本人記者団を招聘した際には、わざわざ基金を活用していた甘肅省蘭州市にある砂漠の緑化事業の現場に案内した。

冷え込んだ日中関係を改善したい習近平政権の政治的な狙いもあったようだが、中国側はそのとき、記者団に対して「日中の協力関係の成果だ」とアピールしたという。

外務省関係者は、「多くの人に関わってきた。中国は間違いなく事業を重要と受け止めている」と話す。

#### ■中国政府、基金への出資を拒否？

日中友好に一定の効果をあげた基金だが、創設から 15 年以上がたち、残高は昨年 6 月時点で約 15 億円に目減り。事業継続を模索する日本政府は、中国が世界第 2 位の経済大国の

地位にあることなどから共同で事業に取り組むのが望ましいとして、昨年末に中国政府に対して出資を持ちかけた。だが驚くことに、中国側は日本が働きかけても「今すぐ拠出するのは難しい」との回答を繰り返し、「中国が資金を拠出するめどはたっていない」(政府関係者)という。日中関係がなかなか改善しないことから、中国政府が手のひらを返すように出資を拒否したとの情報も出ている。中国国内では、基金に対し否定的な意見が多いようだ。中国情報サイト「レコードチャイナ」によると、インターネット上では「お金の問題ではなく立場、民族としての尊厳の問題だ。大中国は日本の助けなど必要としない」、「日本が中国のことに手出しするのはお断り」などの意見が出ているという。

日本政府はとりあえず、中国だけだった事業を日本や第三国にも広げることにして、約90億円を27年度補正予算で計上した。

#### ■止まぬ反日感情、中国人は恩知らず？

日本の対中支援の歴史は長い。中国の改革・開放政策を支援する目的で昭和55年度に始まった円借款は、天安門事件後などに一時凍結されたものの、一貫して中国の経済発展に貢献。平成19年度新規供与分で終わるまでに、総額は約3兆3000億円に上った。

だが当時の中国政府は反日宣伝を繰り返し、「円借款は戦後賠償」などの認識を表明。このため、日本の援助が中国の成長を支えたことはあまり知られていないのが実情だ。中国人の反日感情はいまだ根強い。せっかく支援しても、ろくに感謝もされない。日本ではこんな意識が広がり、基金に対しても異論が続出し始めている。ある与党関係者は、「反日宣伝を進める中国を支援する必要はない」と断言する。

また、経済大国に浮上した中国に対し「いまだに日本が中国の植林事業を支援する必要があるのか」といった意見も浮上している。

基金が当初目指したような友好の促進は、期待しにくい状況にもなってきた。そのあり方を考え直す時期にさしかかっているのかもしれない。(産経新聞 4月9日(土)12時30分 配信：中村智隆)

## 5. 2016年度の会費の振込みをお願い致します




4月1日より始まりました2015年度会費(個人会員3,000円、学生会員1,000円)納入の件、よろしくお願い致します。

お振込みの手続きは、同封の青い「払込取扱票」で、手続きが出来ます。

なお、会計は中村民夫副代表(tamio\_n@hotmail.com)が担当しています。中村さんへの連絡は押田経由(oshida@azabu-u.ac.jp)か、直接、ご本人へお願い致します。

郵便振替払込書 (払込取扱票) 青
口座番号 00190-3-566175
加入者名 青樹会



## 6. 会報の原稿を募集しています



最近、気になること、私の提案、中国情報、その他なんでも原稿をお寄せ下さい。あて先は押田(oshida@azabu-u.ac.jp)へ、メールで戴けると幸いです。なお、メールが困難な場合にはfax(048-664-5884)か郵送で(331-0825 さいたま市北区榎引町2-574-2 GA大宮111号)までお願い致します。